

私立大学情報教育協会
平成28年度
大学職員情報化研究講習会
基礎講習コース報告

B-2班Macでスタバ

B-2班[Macでスタバ]の紹介



発表テーマ
Face to Faceの創出
～デジタルとアナログの両立～

テーマ選定理由(1) 大学の役割

大学は社会を発展させる役割も担っている

→ 社会に求められる学生の輩出



研究、地域貢献、etc

社会に求められる学生の能力とは？

→ コミュニケーション能力・主体性

理由・・・学生は、社会に出てからは受け身のままではいけない！

コミュニケーション能力・主体性を通常の授業だけで補うことは難しい
そのため、授業以外で身に付ける場を提供したいが・・・

テーマ選定理由(2) 大学の現状

自分たちの経験から...

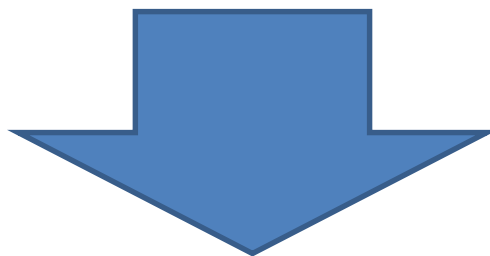
- ・多様な経験(留学やボランティア)をさせる場はあるが、それが上手く学生に伝わっていない、または活用されていないケースが多い
- ・一度学生間でコミュニティが形成されると、それ以外のコミュニティに対して積極的に関わろうとしない

現状を改善するためには、どのような取り組みが必要なのだろうか？

- ・新たなコミュニティ形成の場を提供
- ・教員・職員の意識改革を行い、大学全体での協力が不可欠である
職員も教育にかかわるという意識

テーマ選定理由(3) このテーマを選んだ理由

主体性・コミュニケーション能力を身に付けるには、インターネット上だけで全てを完結するのではなく、人と人が直接関わり対話する必要があるのではないか？



Face to Faceの創出
～デジタルとアナログの両立～

「Face to Face 創出」の課題

- ・行事や課外活動に積極的に参加して「いない」学生を拾い上げる必要がある
- ・こちらから働きかけて参加してもらっただけでは、主体性は身につかないのではないか？
- ・学生・教員・職員間の関わりが希薄
 - 学生の興味・関心は？ 学生のニーズは？

解決策の検討

主体性のある学生を作るための環境づくり

①学生 対 学生
学生同士のOJT

②学生 対 教職員
年1回の面談を義務化

③学生 対 教員 対 職員
学生の興味に基づいたイベント

解決策の検討① 学生同士のOJT

学生 対 学生

【内容】

2年生が1年生のサポートをする

履修登録のアドバイス・学生生活全般のサポート

【ICTの活用】

2年生のピアサポーターの選別（成績・学生情報など）

OJTのフィードバック

【効果】

1年生の入学時のつまづきの防止（入学時の環境づくりが大切）

2年生の主体性を持つきっかけを提供できる

解決策の検討② 年1回の面談を義務化

学生 対 教職員

【内容】

全学生対象とした三者面談(教員・職員・学生)
面談する職員は教学系の部署全体で選出する

【ICTの活用】

学生の人となり、何に興味を持っているか、どんな学生生活を送りたいのか、学生自身の考えを登録し蓄積していく。その情報を教員・職員間で共有し、今後の行事、面談などにつなげる。

上級生・卒業生をアドバイザーとして紹介

【効果】

プラス面(留学・就職)、マイナス面(退学・孤立)でのロールモデルの提示・蓄積ができる
学生の抱える問題の早期発見につながる

解決策の検討③ 学生の興味に基づいたイベント

学生 対 教員 対 職員

【内容】

まずは職員がイベントを提案し、学生に興味を持ってもらうきっかけづくりをする
最終的には企画・運営まで学生が主体になって行うことを目指す

【ICT活用】

あらかじめ入力してもらった学生の興味・関心に合った範囲の学生に的を絞る

【効果】

学生の参加率が上がる

同じコミュニティにこもりがちな学生に、新たな出会いの機会を提供できる

企画・運営を通じて学生の主体性を養える

教員・職員・学生の繋がりを涵養できる

ツールとしてのICTの活用方法

ポータルサイトに一元化することで情報の

- ①蓄積・・・学生情報、過去のイベント情報、ロールモデル
 - ②共有・・・教職員間で蓄積した情報の共有
 - ③提供・・・学生の現状やニーズに合った情報を効率よく提供
- 3つを図ることができる。

ICTはあくまでツールであり、本来大切にしたいFace to Faceの場を効率的・効果的に提供することで、学生の主体性・コミュニケーション能力を伸ばす機会を与えていきたい